キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10572004				
授業名	人間の心理と行動 D	形態	講義	単位	2
担当教員	富澤 佳代子				
開講学期	2025年度 前学期	曜日・時限	金曜3限		
授業目的	心理学視点に基づいて心の仕組み、心と行動のつながりや関連について理解する。				
授業内容	心理学の様々な領域から話題を取り上げ、行動はどういった背景で選択され、また変化するのかを理解することを中心テーマに人の心と行動を理解するための多様な視点や方法について学ぶ。 授業内で実施するワーク、リアクションペーパー課題に取り組むことを通して心と行動のつながりについて考察する。また、第14回授業時には授業内試験を行う。 なお、第14回授業内試験を受けられなかった場合、第16回授業回に対応する。				
到達目標	心理と行動に関する心理的諸機能について、理解する パーソナリティ等個人差、適応機制について理解する 講義全体の内容から自分自身の心と行動のつながりについて考察する				
ディプロマポリシーとの関連性	<大DP1-(5)> 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。				
授業形態	配布資料に基づき、講義形式で行う。適宜、視聴覚教材、ワークを取り入れながら授業を進める。授業内でリアクションペーパーの提出または課題の提出を求める。提出された課題や授業後の質問については、次の授業回で解説を行う。 臨床心理士として、精神科クリニック等での相談業務、発達支援業務に携わってきた経験から心と行動の関連性の理解が深まるように身近な事例や具体的事例をあげて講義をすすめている。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下のURLをご参照ください。 https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2025jitsumukyoin.pdf (【千葉キャンパス】2025年度 実務経験のある教員一覧)				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。				
評価方法	(1) 授業内筆答試験 (2) 提出物：リアクションペーパー、学習課題を総合して評価する。				
評価基準	授業内実施の筆答試験60点、リアクションペーパーおよび提出物 40点 合計100点				
試験・レポート等のフィードバック	レポート、リアクションペーパー、筆答試験は、次の授業内で取り上げ、解説をする。				
注意事項及び履修条件	筆頭試験は、授業内配布物と自作ノートの持ち込みを可とする。試験規定に基づく。 授業内配布資料に講義時の解説を書き込むだけでなく、事前事後学習時の自主学習により理解に努めるよう求める。				
S : 100~90、A : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、D : 60未満					
第1回					
事前学習	シラバスを読み、授業の目標や内容について理解する。 心が行動にどのような影響を与えていると思うか、具体的な体験場面を一つ上げ、検討し、250字程度にまとめる。				
授業内容	オリエンテーションを実施。講義内容、評価方法、到達目標等の説明を行う。 また、本講義の入り口として心はどこにあるのか？心とは何か？について講義を行う。				
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる箇所に下線を引く。 あわせて理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。				
参考文献					
第2回					
事前学習	知覚・感覚について調べ、250字程度にまとめる				

授業内容	人はどのように環境を認識しているのか、感覚や知覚の働きについて学ぶ。 特に形や奥行き、知覚、知覚特性について理解する 視知覚の主観性について学ぶ
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる箇所の下線を引き、理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。 配布プリントに記載された復習用設問3問に取り組む。
参考文献	

第3回

事前学習	何気なくしている行動がどのような感覚を使って起こしている行動なのかを具体的に考え、250字程度にまとめる
授業内容	普段意識されにくい感覚が、運動を起こすことにつながっていることについて説明する。感覚と運動のつながりが適応的行動の選択に影響していることについて講義する。 感覚と運動のつながりの視点から発達の遅れや偏りについて理解する視点を学ぶ。
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる箇所の下線を引き、理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。 配布プリントに記載された復習用設問3問に取り組む。
参考文献	

第4回

事前学習	記憶されやすい事象と記憶されにくい事象について個人的経験に基づいて具体的に検討し、250字程度にまとめる
授業内容	記憶のメカニズムや記憶の変容について講義する
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる箇所の下線を引き、理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。 配布プリントに記載された復習用設問3問に取り組む。
参考文献	

第5回

事前学習	感情、情動、気分、それぞれの言葉について辞書等を用いて調べ、250字程度にまとめる。
授業内容	感情、情動の行動への影響を理解する 怒りのメカニズム、アンガーマネジメントについて学ぶ
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる箇所の下線を引く。 A4配布されたワーク資料に基づきアンガーマネジメントを実践し、記録にまとめる。
参考文献	

第6回

事前学習	学習とは何か、心理学における学習の定義を中心に400字程度にまとめる
授業内容	学習とは 経験が行動を変化させることをテーマに講義する 自己効力感や自己肯定感が学びに与える影響について理解する
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる箇所の下線を引き、理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。 配布プリントに記載された復習用設問3問に取り組む。
参考文献	

第7回

事前学習	マズローの欲求階層説についてインターネットや心理学辞典などを活用して受講者なりに調べて400字程度にまとめておく。
授業内容	何が行動を方向付けたり活性化したりするのか、なぜしなければならない行動を先延ばしにするのかをテーマに人が行動を起こしたり起こさなかったりする背景について講義する。 動機づけ、適応規制、先延ばし、意思決定について説明する。
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる箇所の下線を引く。 あわせて理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。最近の生活場面で受講者が経験した葛藤場面、先延ばし場面について具体例を挙げて検討し、講義内容の理解を深める(400字程度)。
参考文献	

第8回

事前学習	受講者自身が自分の性格特徴について書き出してみる。自分の性格と家族の性格の類似点と相違点を挙げ、性格形成に関与する遺伝と環境の要因について受講者なりに考察する(600字程度)
授業内容	性格の形成について、性格をとらえようとする心理学理論について説明する。 また、自己評価が対人行動に影響することなど、自己についてのとらえ方が行動に影響していることを説明する。
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる個所に下線を引く。 あわせて理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。 授業内で紹介する性格理論を参考に自分自身の性格をとらえ、400字程度にまとめる
参考文献	

第9回	
事前学習	自分の思いとは違った行動をとった経験や場面を思い出しながら、集団が行動に与える影響について考えをまとめる(250字程度)
授業内容	人の心や行動を決定するのに社会的影響がどのように関与するのかについて講義する 「空気を読んで行動する」ことは心理学の観点からどのように考えるかを説明する
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる個所に下線を引く。 あわせて理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。 講義内容を振り返り、社会的な関係や行動が自分自身にどのように影響してきたかを振り返り考察する(400字程度)。
参考文献	

第10回	
事前学習	ストレスが日常生活に影響を及ぼした場面を書き出し、どのようなストレスがどのような形で現れたのかをまとめておく(250字程度)
授業内容	ストレスと行動の関係について ストレスが加わった時の心身の変化とストレス要因、ストレスの対処方法について理解する
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる個所に下線を引く。 あわせて理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。これまで受講者自身がストレス対処方法として行ってきた行動にどのようなものがあるかを振り返り、その他にどのようなストレス対処方法があるか検討し考察する(600字程度)
参考文献	

第11回	
事前学習	子ども虐待が思春期青年期にどのような影響を及ぼすのか事前に調べる(400字程度)
授業内容	子ども虐待について 子ども虐待によって生じるこころと行動の影響について講義する 虐待からの回復にどのような取り組みや支援が必要なのかを学ぶことを通して、心の発達に必要な環境条件について考える。
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる個所に下線を引く。 あわせて理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。講義の内容についてふりかえり、子ども虐待からの回復の条件について400字程度にまとめ考察する
参考文献	

第12回	
事前学習	発達障害児者の心理について取り上げられた新聞、雑誌記事等を調べて読み、概要をまとめる(400字程度)
授業内容	知的障がい、発達障がいを抱える子どもたちの二次的適応障害について講義する 状況の認知と行動の関連、行動の結果の認知が心に及ぼす影響について 認知と行動、心の状態との関連についての理解を深める
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる個所に下線を引く。 あわせて理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。講義内容について振り返り、二次的適応障害を予防するために、支援者側にはどのようなかわりが求められるのかを検討する(600字程度)
参考文献	

第13回	
事前学習	カウンセリングや心理療法として用いられる具体的な技法を調べ2つ以上についてその特徴をまとめる(600字程度)

授業内容	悩むということ、悩みを支える関わりについて講義する 話を聴くこと、聴いてもらうことがこころや行動にどのような影響を与えるかを検討する
事後学習	授業内プリントの整理、重要と思われる箇所に下線を引き、理解が不足していると思われる箇所について調べ、必要に応じてプリント内にまとめるなどして理解の定着を図る。 配布プリントに記載された復習用設問3問に取り組む。
参考文献	

第14回

事前学習	第1回から第13回までの講義内容を再確認し概要を理解する。事前に公表された課題の中から1つ以上に取り組む。
授業内容	授業のまとめと授業内試験を行う。第1回～13回の講義内容から出題する。
事後学習	筆頭試験問題の一部を配布されたシートに基づき、再度取り組む。 こころと行動の関連についてをテーマに600字程度で自分なりの考えをまとめる
参考文献	

第15回

事前学習	講義全体の復習、試験の振り返りを行う。14回講義時に指示する事前学習課題に取り組み、提出する。
授業内容	試験の振り返りおよび講義のまとめ 試験の講評を行い、人間の心理と行動についてまとめの講義を行う。 講義への取り組みや理解の到達度について自己評価する。
事後学習	これまでの講義全体の振り返りを踏まえ、配布資料全体を見直し、理解の不足する点について調べるなどして知識の定着を図る。講義時に配布する事後学習シートに基づき、事後学習に取り組む
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><大DP-1>【社会の構成員としての基本的知識・技能・能力】</p> <p><大DP1-(1)> 日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。</p> <p><大DP1-(2)> 情報リテラシーや数量的スキルを修得している。</p> <p><大DP1-(3)> 課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。</p> <p><大DP1-(4)> 自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。</p> <p><大DP1-(5)> 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。</p> <p><大DP-2>【専門教育分野における知識・技能・能力】</p> <p><大DP2-(1)> 自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。</p> <p><大DP2-(2)> 修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。</p>
-----------	---